

## ウイルス性肝炎

肝炎は肝臓の炎症です。

ウイルスやアルコール、医薬品その他、製造現場で使われる有機溶剤や特定化学物質などが原因となりますが、最も多いのはウイルスです。このため、肝炎といえば一般にウイルス性肝炎を意味します。

肝炎を起こすウイルスにはA、B、C、D、E型の5種類がありますが、このうち慢性化することが多くて肝硬変や肝がんといった重い肝臓病になる危険性が高いのはC型、次いでB型です。

(日本ではA、D、E型肝炎は稀なので、一般に検診やドックでは検査しません。) 肝がんによる死者の数は年間3万人を超えていて、その95%はC型とB型慢性肝炎から生じ、それぞれ肝がん全体の75~80%と10~15%を占めています。

KKCドックでは、BとC型肝炎ウイルスに関する検査を行っています。「要精密検査」と判定された方は、必ず医師にご相談ください。

### A型ウイルス性肝炎

A型肝炎ウイルスに汚染された食べ物や飲み水から感染します。日本で感染することはほとんどありませんが、海外、特に熱帯圏では多発しています。そのような土地への渡航者は、HA抗体検査を受け、HA抗体が陰性ならばA型肝炎ワクチンの接種を受けておく方が安心です。(HA抗体は、以前にA型肝炎ウイルスに感染したことを示し、これが陽性なら発病する心配はありません。)

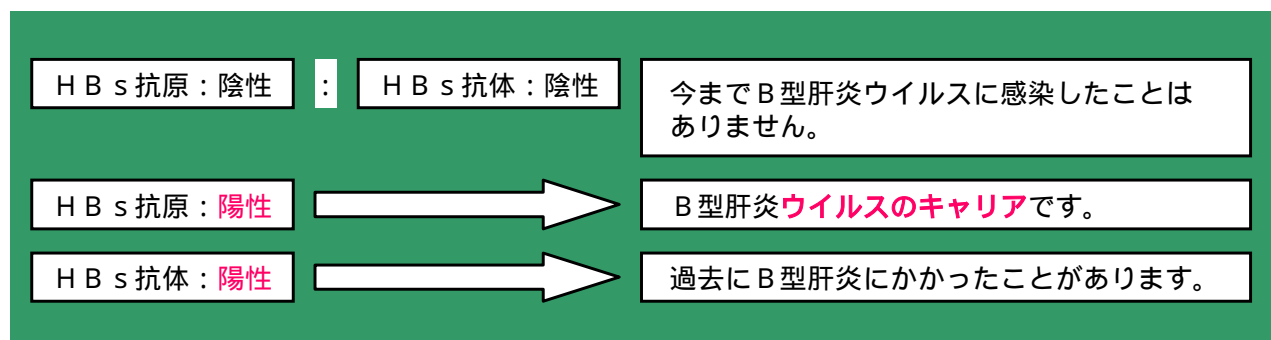
感染して発病すれば、発熱、全身倦怠感や重病感、食欲不振、時には黄疸などが起こります。稀に劇症肝炎になって死亡する人がありますが、慢性化することはありません。

## B型ウイルス性肝炎

成人では、多くの場合、B型肝炎ウイルスのキャリア（保有者）との性行為を介して感染します。感染しても無症状のことが多く、時にはA型肝炎と同様の急性肝炎の症状を起こすこともありますが、大抵は無事に治ります。ただ稀には劇症肝炎を起こしたり、慢性肝炎に移行することもあります。キャリアの血液や体液から感染し、渡航者はHB抗原・抗体が陰性なら、B型肝炎ワクチンの接種を受けておく方が安心です。

（注）病原体に感染しているかどうかは、病原体を構成する蛋白成分（抗原）を調べて確かめます。一般に、B型肝炎ウイルスについては、その表面を構成するsという蛋白成分（HBs抗原）を調べます。これが陽性なら、その人はB型肝炎ウイルスのキャリアです。精密検査では、ウイルスの内部にあるeという蛋白成分（HBe抗原）を調べることもあります。

感染後にはリンパ球の働きで、月日の経過とともに病原体に対抗して病気を抑える抗体ができることがあります。検査ではHBs抗原に対するHBs抗体を、精密検査ではHBe抗体を調べることがあります。HBs抗体が陽性なら、以前にB型肝炎ウイルスに感染したことを示しています。



## C型ウイルス性肝炎

B型肝炎と同様、血液や体液を介して感染しますが、C型肝炎ウイルスの感染力は弱く、濃厚で頻繁な接触がなければ、夫婦間でもあまり感染しません。しかし一旦感染すると、無症状のまま体内でウイルスが生き続けます。つまり無症候性キャリアになるわけです。そのうちに、いつとはなしに慢性肝炎になる場合が多く、その後高率に肝硬変や肝がんに移行します。集団健診でC抗原を調べるのは難しいので、C抗体を調べます。これが陽性なら医師に受診して、無症候性キャリアであるか慢性肝炎であるかを確かめることが必要です。

（注）以前はB、C型肝炎ウイルスとエイズウイルスは、それらのウイルスに汚染された血液や血液製剤の輸血や注射で感染することがよくありましたが、最近では予防法が進んで、そのようなことはほとんどなくなりました。キャリアの母親から赤ん坊にうつるケースも少なくなりましたが、ただC型肝炎ウイルスの母子感染はまだ数%の割合で起こっています。